

科 目 名	社会制度政策研究演習 I			担当教員：仲地 清
科目名（英語）	Seminar in social systems and Policies I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	5 0 3	月 15：00～17：00 金 15：00～17：00
1. 講義内容				
修士論文執筆へ向けた準備セミナーである。問題意識、問題発見、研究分野として可能性、分析方法、適用可能な理論、資料収集方法などについて講義する。				
2. 履修要件				
国際関係特論、国際政治特論の受講済みが望ましい。 社会制度政策教育研究領域専攻は必修科目				
3. テキスト				
特定のテキストは指定しないが、テーマについての関連論文を多く精読する。				
4. 参考書				
戸田山和久著「論文の教室」NHK ブックス、2005 年 大串夏芽著 「文化系学生のインターネット検索術」青弓社、2001 年 谷岡一郎著、『社会調査のウソ』リサーチ・リテラシーのすすめ」文春新書、2000 年				
5. 講義予定				
第 1 回（4/11）修士論文のレベル				
第 2 回（4/18）合格修士論文の条件				
第 3 回（4/25）名桜大のこれまでの修士論文				
第 4 回（5/2）名桜大のこれまでの修士論文				
第 5 回（5/9）研究者倫理				
第 6 回（5/16）研究者倫理				
第 7 回（5/23）問題の発見				
第 8 回（5/30）問題の発見				
第 9 回（6/6）資料はどこにあるか				
第 10 回（6/13）資料はどこにあるか				
第 11 回（6/20）面接方法				
第 12 回（6/27）アンケート調査				
第 13 回（7/4）理論発見				
第 14 回（7/11）理論発見				
第 15 回（7/25）学生の研究テーマの発表				
第 16 回（8/1）まとめと試験				
第 17 回 研究題目の決定				
第 18 回 問題の認識				
第 19 回 研究動機				
第 20 回 研究理論、方法論の確定				
第 21 回 研究項目の設定				
第 22 回 文献と所在地				
第 23 回 文献と所在地				
第 24 回 実地調査				
第 25 回 実地調査				
第 26 回 整理				
第 27 回 整理				
第 28 回 これまでの成果の点検				
第 29 回 これまでの成果に点検				
第 30 回 補充調査・研究				
第 31 回 補充調査・研究				
第 32 回 まとめ				
6. 評価方法				
理論に関するレポート 30 点				
フィールド調査レポート 30 点				
研究課題に関するレポート 30 点				
発表内容と技術 10 点				
合 計 100 点				
7. その他				
大学院生は自主学習を重んじます。積極的に学問の追及に挑戦してください。				

科目名	社会制度政策研究演習Ⅱ			担 当 教 員 : 仲地 清
科目名(英語)	Seminar in Social Systems and Policies Ⅱ.			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	305	月 15 : 00～18 : 00 金 15 : 00～18 : 00

1. 講義内容

修士論文を仕上げる最終年の演習であるので、執筆指導を中心にする。1年で終えた作業を踏まえ、精密で内容のある論文に仕上がるように指導する。

2. 履修要件

社会制度政策研究演習Ⅰを履修済みであること。社会制度政策教育研究領域の専攻は必修。

3. テキスト

随時紹介する。

4. 参考書

随時紹介する。

5. 講義予定

第 1 回	(4/12)	受講生による予定論文の内容の説明	第 17 回	執筆
第 2 回	(4/19)	論文取り組みの心得	第 18 回	執筆
第 3 回	(4/26)	論文取り組みの心得	第 19 回	執筆
第 4 回	(5/10)	目次検討	第 20 回	執筆
第 5 回	(5/17)	目次検討	第 21 回	執筆
第 6 回	(5/24)	調査方法	第 22 回	校正
第 7 回	(5/31)	調査方法	第 23 回	校正
第 8 回	(6/7)	分析方法	第 24 回	校正
第 9 回	(6/14)	分析方法	第 25 回	点検
第 10 回	(6/21)	資料収集	第 26 回	再点検
第 11 回	(6/27)	資料収集	第 27 回	再点検
第 12 回	(7/5)	資料収集	第 28 回	製本準備
第 13 回	(7/12)	引用技術	第 29 回	製本準備
第 14 回	(7/19)	引用技術	第 30 回	製本
第 15 回	(7/26)	引用技術	第 31 回	発表準備
題 16 回	(8/2)	執筆	第 32 回	発表準備

6. 評価方法

目次など研究枠組みに関する報告	30点
第10段階の論文の出来具合の点検	30点
50%段階の完成度に関する報告	40点
合 計	100点

7. その他

修士論文は基本的に自分自身で仕上げる作業である。最高の論文に仕上げることを目標に、気を抜かないで頑張っていて欲しい。

科目名	国際政治特論 I			担 当 教 員 :
科目名(英語)	International Politics I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1－2	First semester		

1. 講義内容

This course will provide in-dept study of the Southeast Asian country of Burma(Myanmar), with the goal of trying to understand Burma's on-going political crisis in terms of its history, economy, culture and social structure. The emphasis is interdisciplinary, rather than a conventional political science approach.

2. 履修要件

Students should have adequate fluency in English, to contribute to class discussions.

3. テキスト

Ayabe and Ishii. Motto Shiritai: Myanmar(Tokyo:Kobundo,1994)and materials provided by the instructor

4. 参考書

See above

5. 講義予定

- 第 1 回 History of Burma: dynastic
- 第 2 回 History of Burma, colonial(19th-20th century)
- 第 3 回 History of Burma, wartime(1941-1945)
- 第 4 回 History of Burma, independence period (1948-1962)
- 第 5 回 Socialist Burma (1962-1988)
- 第 6 回 The 'People's power' Movement of 1988
- 第 7 回 Burma under the SLORC/SPDC (1988-) (I)
- 第 8 回 Burma under the SLORC/SPDC(II)
- 第 9 回 Burmese Buddhism(I)
- 第 10 回 Burmese Buddhism(II)
- 第 11 回 Daily life and customs
- 第 12 回 Foreign Relations from 1962, 1988
- 第 13 回 Economic liberalization after 1988
- 第 14 回 Ethnic Minorities in Burma(I)
- 第 15 回 Ethnic Minorities in Burma(II)

6. 評価方法

one final paper and two class reports on topic of choice (80 点 of grade) attendance (20 点 of grade)

7. その他

科目名	国際政治特論Ⅱ			担 当 教 員 :
科目名(英語)	International Politics II			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1 - 2	Second semester		Tuesday and Fridays, 3 rd period (13:10-14:40)

1. 講義内容

The theme of the second part of 'Kokusai Seiji Tokuron' is 'Literature and Politics in South and Southeast Asia'. Various authors will be studied in order to understand how the medium of literature conveys important political and social themes.

2. 履修要件

Students should have adequate fluency in English, to contribute to class discussions.

3. テキスト

George Orwell, *Burmese Days*, "Shooting an Elephant" (essay)

E.M Foster. *A passage to India*

Graham Greene. *The Quiet American*

Pramoedya Ananta Toer, *This Earth of Mankind*(Pt. I of the *Buru Quartet*)

4. 参考書

See above.

5. 講義予定

第 1 回 Orwell(Ⅰ)

第 2 回 Orwell(Ⅱ)

第 3 回 Orwell(Ⅲ)

第 4 回 Orwell(Ⅳ)

第 5 回 Foster(Ⅰ)

第 6 回 Foster(Ⅱ)

第 7 回 Foster(Ⅲ)

第 8 回 Greene(Ⅰ)

第 9 回 Greene(Ⅱ)

第 10 回 Greene(Ⅲ)

第 11 回 Greene(Ⅳ)

第 12 回 Pramoedya Ananta Toer(Ⅰ)

第 13 回 Pramoedya Ananta Toer(Ⅱ)

第 14 回 Pramoedya Ananta Toer(Ⅲ)

第 15 回 Pramoedya Ananta Toer(Ⅳ)

6. 評価方法

one final paper and two class reports on topic of choice (80 点 of grade)

attendance(20 点 of grade)

7. その他

科目名	開発経済特論 I			担 当 教 員 : 大城 肇 (学外)
科目名(英語)	Economies of Developing Countries I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前学期 (集中講義)	非常勤講師 控室	期間中, 終了後 1 時間

1. 講義内容

「開発は人類が立ち向かっている最も重要な挑戦である」といわれる。開発の概念、経済開発の理論アプローチ、経済開発の中心的課題、経済開発の光と陰、開発と環境、人間の安全保障、島嶼地域の開発のあり方等について講述する。近年、開発と環境が対立概念として扱われ、1 億総環境派という中にあって、開発に分が悪い状況下にある。開発とは本来どのような使命を担うべきであったか、開発と環境の両立という考えはどこから発してきたか、開発は不要なのか、などなどについて現実の経済をふまえて検討する。この講義を通して、開発のあり方や持続可能な発展のための開発について受講生とともにディスカッションしていきたい。

2. 履修要件

開発経済に関心のある受講生を歓迎する。

3. テキスト

独自の教材をテキストとして使用する。講義開始時に配布する。

4. 参考書

- ・高木保興『開発途上国の経済分析』東洋経済新報社
- ・速水佑次郎『開発経済国』創文社
- ・小浜裕久『ODA の経済学』日本評論社
- ・藤崎成昭『発展途上国の環境問題』アジア経済研究所
- ・世界銀行『世界開発報告』各年版, 東洋経済新報社
- ・M.P.トドロ『M.トドロの開発経済学』国際協力出版会
- ・原 洋之介『開発経済論』岩波書店
- ・西川潤『社会開発』有斐閣
- ・石 弘之『地球環境報告』岩波書店
- ・渡辺利夫『開発経済学』日本評論社
- ・W.エルカン『開発経済学』文真堂

5. 講義予定

Chap. I 開発経済学の課題

- 第 1 回 グローバリゼーションと開発途上国
- 第 2 回 開発経済学の系譜
- 第 3 回 発展途上国の特性／成長と発展と開発

Chap. II 人間と開発

- 第 4 回 貧困とその現状／貧困の要因と解決策
- 第 5 回 経済開発と平等化
- 第 6 回 偽装失業とインフォーマルセクター
- 第 7 回 マイクロ・クレジット

Chap. III 開発のメカニズム

- 第 8 回 経済成長のメカニズム
- 第 9 回 経済開発と人的資源
- 第 10 回 経済開発と技術
- 第 11 回 プロダクト・サイクル論

Chap. IV 経済開発と開発資金

- 第 12 回 資本蓄積と開発資金
- 第 13 回 直接投資と経済発展
- 第 14 回 政府開発援助の功罪

Chap. V 経済開発と環境

- 第 15 回 持続的発展の概念／循環型社会の実現のために

6. 評価方法

ディスカッション (20%) 及び課題レポート (80%) をもとに成績を評価する。レポートの評価基準は以下のとおりである (80 点満点に換算する)。[] 内はディスカッションの評価基準である。

なお、総授業時間数の三分之一以上を欠席した者は理由の如何を問わず不可と評価する。

- 16～20 点：期限通り提出、内容が優れている [活発に質問し議論に参加]
- 11～15 点：期限取り提出、内容に課題あり [ある程度に質問し議論に参加]
- 6～10 点：期限より遅れて提出、内容良好 [たみに質問し議論に参加]
- 1～5 点：期限より遅れて提出、内容に課題あり [ほとんど質問はなく議論に参加せず]
- 0 点：未提出

7. その他

プロジェクターと資料展示装置を用いたハイペースの講義を行う。積極的なディスカッションを期待したい。

科目名	開発経済特論Ⅱ			担 当 教 員 : 野崎四郎(学外)
科目名(英語)	Economies of Developing Countries Ⅱ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	集中講義 (後期)	非常勤講師控室	講義終了後

1. 講義内容

貧困・格差等の経済開発について、一般的な理論を地域・国際の観点から講義する。

2. 履修要件

特にない。

3. テキスト

「テキストブック開発経済学」 ジェトロ・アジア経済研究所、朽木昭文・野上裕生・山形辰史（編）
有斐閣ブックス 2004 年

「開発経済学の潮流」 G・M マイヤー、J・E・スティグリッツ(共編)、関本勘治・近藤正規、
国際協力研究グループ シュプリンガー・フェアラーク東京

4. 参考書

適宜、指定する。

5. 講義予定

第 1 回	開発に関する一般論
第 2 回	〃
第 3 回	〃
第 4 回	〃
第 5 回	開発への取り組み（Ⅰ）
第 6 回	〃
第 7 回	開発への取り組み（Ⅱ）
第 8 回	〃
第 9 回	開発への取り組み（Ⅲ）
第10回	〃
第11回	開発と人材
第12回	〃
第13回	開発のメカニズム
第14回	〃
第15回	まとめ

6. 評価方法

発表、討論、提出ペーパー等で評価する。

7. その他

リサーチペーパーは第 15 週に提出すること。

科 目 名	国際関係特論 I			担当教員：仲地 清
科目名（英語）	International Relations I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	I、2年次	前期	503	月：12；10～15：00 火：13：00～15：00

1. 講義内容

国際関係の理論、米外交政策、日本外交、沖縄と周辺諸国（地域）との関係、国際政治史、時事問題などからテーマを選び、セミナー式の講義をする。

2. 履修要件

国際関係特論、国際政治特論を同時受講することを勧める。社会制度政策教育研究領域専攻の必修科目である。

3. テキスト

国際関係論の概説書を 3 冊選び、精読すること。その後、著書、論文、参考図書から、講義日程の内容に対応した資料など抜粋して配布する。

4. 参考書

随時紹介する。国内外の新聞、月刊誌に目を通して、国内外の動きを把握して国際問題に関心を持つこと。
細谷千博著「日本外交の奇跡」NHK ブックス（2004 年版）
高屋定國著、グローバル時代の政治、メネルヴァ書房、1996
Kiyoshi Nakachi, Ryukyu-U.S.-Japan Relations 1945-1972, Abiva Publishing House, 1989
宮里政玄著、アメリカの沖縄統治、岩波書店、1966
管英輝 著、米ソ冷戦とアメリカのアジア政策、ミネルヴァ書房、1993

5. 講義予定

第 1 回（4/11） 国際関係論の歴史と研究領域
第 2 回（4/18） 国際関係と私（受講生の関心領域の発見）
第 3 回（4/25 ） 国際政治史 1
第 4 回（5/2 ） 国際政治史 2
第 5 回（5/9 ） 国際政治と日本
第 6 回（5/16） 国際政治と沖縄
第 7 回（5/23） 国際関係の理論 1（国際認識と国際理論）
第 8 回（5/30） 国際関係の理論 2（伝統主義）
第 9 回（6/6 ） 国際関係の理論 3（科学主義）
第 10 回（6/13） 国際関係の理論 4（ポスト科学主義）
第 11 回（6/20） 学生の報告（理論の再検証）
第 12 回（6/27） 国際問題① グローバル社会と地域
第 13 回（7/4） 国際問題② グローバル社会と国
第 14 回（7/11） 国際問題③ グローバル社会と国際機構
第 15 回（7/25） グローバル時代に該当する国際関係理論の再検討
第 16 回（8/1 ） まとめと試験

6. 評価方法

理論に関するレポート

20 点

時事問題に関するレポート

20 点

研究課題に関するレポート

20 点

書評

20 点

発表内容と技術

20 点

合 計

100 点

7. その他

大学院生は自主学習を重んじるので、時代の変化に対応した新しい課題、研究方法を掴む努力をしてください。

科目番号	国際関係特論Ⅱ			担当教員：仲地 清
科目名(英語)	International Relations Ⅱ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1. 2	後期	503	月 15：00～17：00 金 15：00～17：00

1. 講義内容

私の専門領域である安全保障、戦争と平和、日中関係、日米関係、沖縄の戦後政治史などを中心とした講義で、修士論題の選択へ向けて、学生の基本的な知識とモチベーションを高める。

2. 履修要件

国際関係特論、国際政治特論を受講済みが望ましい。
社会制度政策教育研究領域専攻の必修科目

3. テキスト

特定のテキストは指定しないが、講義内関連のテーマについての論文、課題などを参考書などから抜粋して使用する。

4. 参考書

国内外の新聞、月刊誌に目を通して、国内外の動きを把握して国際問題に関心を持つこと。
宮城悦二郎編「復帰 20 周年記念沖縄占領」ひるぎ社、1993 年
小泉親司著「日米軍事同盟史研究」新日本出版社、2002 年
Kiyoshi Nakachi, Ryukyu-U.S.-Japan Relations 1945-1972, Abiva Publishing Houseline, 1989
宮里政玄著「アメリカの対外政策決定過程」三一書房、1981 年

5. 講義予定

第 1 回 国際社会の課題

第 2 回 沖縄問題の認識（フィルド調査）

第 3 回 沖縄戦後史

第 4 回 沖縄県祖国復帰運動

第 5 回 米国軍事戦略と沖縄基地

第 6 回 地方自治と沖縄の基地

第 7 回 日米軍事同盟と沖縄基地

第 8 回 日中関係Ⅰ

第 9 回 日中関係Ⅱ

第 10 回 日米関係

第 11 回 平和運動、NGO、日本の国際貢献

第 12 回 国際問題① グローバル社会と地域

第 13 回 国際問題② グローバル社会と国

第 14 回 国際問題③ グローバル社会と国際機構

第 15 回 学生の研究テーマの発表

第 16 回 （まとめと試験）

6. 評価方法

理論に関するレポート20点

時事問題に関するレポート20点

研究課題に関するレポート20点

書評20点

発表内容と技術20点

合 計100点

7. その他

大学院生は自主学習を重んじますので、たえず時代の変化に対応した新しい課題、研究方法を掴む努力をしてください。

科目名	地域開発政策特論			担 当 教 員 : 宮城 敏郎
科目名(英語)	Regional Development Policy			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	204	月曜日 16：30～18:00

1. 講義内容

経済のグローバル化、高度情報化（IT 革命）の急速な進展に伴って地域の経済環境は大きく変化しており、従来の中央集権のタテワリ行政システムの中で地域の開発政策を考えるのは困難である。

本講義においてはこうした状況を踏まえ、経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、地域の視点（「地方の時代」）から経済の発展について考えていく。後半は実際に沖縄振興開発計画等にふれつつ、開発政策が沖縄の経済的自立にどう影響しているかについて考察していく。

2. 履修要件

特にないが、経済学の知識を備えている者が望ましい。

3. テキスト

プリントを配布する。

4. 参考書

宮城辰男編『沖縄・自立への設計』同文館、平成9年 価格2500円

宮城辰男『沖縄の開発』精印堂印刷、平成9年 価格2000円

伊藤正昭『地域産業論』学文社、1997年 価格2800円

宮本憲一他編『地域経済学』有斐閣、1990年 価格2500円

鎌倉健『産業の集積の地域経済論』2002年 価格3500円

5. 講義予定

- 第1回 (4/13) オリエンテーション
- 第2回 (4/20) 「地域」と「地域経済学」
- 第3回 (4/27) 経済自立の条件とは
- 第4回 (5/11) 経済発展と産業立地
- 第5回 (5/18) 「外部経済」と「取引費用」
- 第6回 (5/25) 「低次元の競争優位」と「高次元の競争優位」
- 第7回 (6/1) シュンペーターの『経済発展の理論』
- 第8回 (6/8) 技術革新と産業構造の変化
- 第9回 (6/15) アナリー・サクソニアン『現代の二都物語』
- 第10回 (6/22) IT革命と地域経済
- 第11回 (6/29) 地域インキュベータと企業の創出
- 第12回 (7/6) 「外発的発展」と「内発的発展」
- 第13回 (7/13) 全国総合開発計画と沖縄振興開発計画1
- 第14回 (7/20) 全国総合開発計画と沖縄振興開発計画2
- 第15回 (7/27) ポスト三次振計と沖縄の経済的自立

6. 評価方法

発表（30点）＋ディスカッション（30点）＋課題レポート（40点）

7. その他

科 目 名	都市政策特論			担 当 教 員 ： 高嶺 晃 (学外)
科目名(英語)	Municipal Policies			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1, 2	後	非常勤講師控室	講義終了後

1. 講義内容

都市計画の基礎理論と実践事例をもとに、時代のニーズに対応したまちづくりについての講義及び事例の検証等をふまえたセミナー方式による。

2. 履修要件

3. テキスト

特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献及び参考資料、レジメ等による。

4. 参考文献

「タイム is タイム」 高嶺 晃 著

5. 講義予定

- 第 1 回 (/) 都市計画の一般的概論
- 第 2 回 (/) 学生とのミーティングによる講義内容の確認と選択
- 第 3 回 (/) 都市計画の実例と検証
- 第 4 回 (/) 都市計画の実例と検証
- 第 5 回 (/) 都市計画の実例と検証
- 第 6 回 (/) 都市計画の実例と検証
- 第 7 回 (/) 都市計画の実例と検証
- 第 8 回 (/) まちづくりのプレゼンテーションの作成の方法
- 第 9 回 (/) 学生のプレゼンテーションの報告と評価
- 第10回 (/) 学生のプレゼンテーションの報告と評価
- 第11回 (/) 学生のプレゼンテーションの報告と評価
- 第12回 (/) 学生のプレゼンテーションの報告と評価
- 第13回 (/) 学生のプレゼンテーションの総合的評価と指導
- 第14回 (/) 学生のプレゼンテーションの総合的評価と指導
- 第15回 (/) 都市計画と都市経営の展開と実践
- 第16回 学期末試験（＊筆記試験を実施する場合）

6. 評価方法

実例の検証レポート、学生のプレゼンテーションなどを総合的に評価する。

7. その他

科目名	地方自治特論			担 当 教 員 : 渡名喜 庸安
科目名(英語)	Local Government			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前学期 (集中講義)	非常勤講師控室	講義終了後

1. 講義内容

わが国ではこの間、地方分権改革が行われてきており、その一環として、全国的に市町村合併が推進され、今日では、県から市町村への権限移譲が進められるとともに、都道府県の廃止を前提とする道州制の導入の議論も高まりを見せている。地方分権改革の課題は、単に地方制度の改革に止まらず、「国のかたち」を変える方向に進められており、国家的関心事ともなっている。

こうした状況を踏まえ、本講義では、地方レベルにおける統治団体（地方政府）である自治体（沖縄県や名護市など）について、「地方自治特論」というテーマのもとで、地方自治制度をめぐる改革論、自治体の仕事（事務）とこれを行う組織の仕組みや特徴、自治体の権能として重要な役割をもっている条例制定の問題、自治体における住民の地位や権利の問題について、その今日的状況と課題を明らかにするという観点から、講述していきたい。

なお、講義の進捗を見ながら、地元自治体である名護市役所（議会を含む）に赴き、講義で扱ったそれぞれの項目（組織や活動内容など）が名護市においてどのような仕組みになっているか、実際にどのように運用されているかについて、ヒヤリングを実施する予定である。もし開催中であれば、議会（や行政委員会）の傍聴や議員ヒヤリングも行ってみたい。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

渡名喜庸安・白藤博行ほか『アクチュアル地方自治法』（法律文化社 2010 年）

4. 参考書

中川義朗編『21世紀の地方自治を考える』（法律文化社）

原田尚彦『地方自治の法と仕組み』（学陽書房）

5. 講義予定

- 第 1 回 ガイダンス＋憲法と地方自治
- 第 2 回 地方自治制度改革論（1）
- 第 3 回 地方自治制度改革論（2）
- 第 4 回 自治体論（1）
- 第 5 回 自治体論（2）
- 第 6 回 自治体の事務
- 第 7 回 自治体の組織（1）
- 第 8 回 自治体の組織（2）
- 第 9 回 自治体の条例（1）
- 第 10 回 自治体の条例（2）
- 第 11 回 自治体と住民（住民の地位と権利）（1）
- 第 12 回 自治体と住民（住民の地位と権利）（2）
- 第 13 回 名護市役所ヒヤリング（議会等の傍聴）
- 第 14 回 自治体としての名護市の制度的仕組み（学生の報告）
- 第 15 回 総括

6. 評価方法

講義の出席状況、発言内容および講義終了後に提出してもらった課題レポート（A4[40×40 行] 4 枚程度）を総合評価する。

7. その他

集中講義の方式で実施。後半に名護市ヒヤリング（議会等の傍聴）を実施する予定である。

講義内容については、受講者とも相談して、若干変更することもある。